

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3470203310		
法人名	医療法人 みやうち		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地 (電話番号)	〒738-0034 広島県廿日市市宮内字佐原田4207番地の4 (電話)0829-38-0793		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成20年6月10日	評価確定日	平成20年7月11日

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	9 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有 135,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	500 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 円
	または1日当たり		

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	広島総合病院 ・ 廿日市野村病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひまわりは、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを基本に、関連の医療機関や福祉・介護事業所との連携を図りながら、理念の下でサービスの質の向上に取り組まれている。常日頃から職員全員は、利用者の方々が我家と同じように暮らし続けていくために、日々の暮らしの中での課題等についての話し合いや工夫を行いながら、ホーム内を家庭的な雰囲気と居心地のよい場となるように取り組まれており、利用者一人ひとりの力が発揮できる環境となっている。また、隣接する関連事業所との連携の下に、地域との交流等にも積極的に取り組まれており、地域の方々との顔馴染みの関係づくりや、ボランティアとしてホームに活動に来ていただくなどの双方向関係が築かれていることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題は特になかったが、管理者と職員はこれまで以上に理念を具体化しながら、サービスの質の向上に取り組まれており利用者の方々の笑顔が多く見られ、安心感と信頼感が伺えた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所全体で自己評価の目的や活用方法をよく理解され、これらには職員全員で取り組み、その結果をミーティングなどの場で改善に向けた話し合いを行って、サービスの質の向上につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的に開催されており、この会議の場では運営推進会議の意義や役割を詳細に伝えられており、会議には所轄の行政担当者や地域包括センターの職員と地域及び家族代表者等多くの参加をいただきながら、事業所からの報告とともに地域との交流などのことも含め、活発な意見交換などが話し合われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 日頃から家族等と管理者及び職員が気軽に意見交換ができる雰囲気づくりと体制が確保されており、様々な相談ごとや支援のあり方などについての要望や意見等は、その都度管理者と職員はその発生要因を探り、課題を検討し、質の向上につなげている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者と職員は共に地域の公民館の活動や、顔馴染みの商店での買い物、美容院に出かけるなどしながら、より多くの人達との顔見知り関係づくりをし、これらを通しての交流の輪を広げている。また、近隣の方からも菜園の活動へのお誘いもいただいている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の事業所の理念を基に、管理者と職員が話し合っ て地域密着型サービスを反映したホーム独自の理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼の際には、必ず理念に触れ意識づけがなされている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的には利用者と職員が共に買物や散歩に出かけ、近隣の人達と挨拶交わしたり、また、地域の様々な行事等に積極的に参加しながら顔見知りの関係づくりと交流の輪を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義や活用方法は、管理者と職員はよく理解し、全員で取り組んでいる。また、その結果を踏まえて改善に向けての話し合いを行って、サービスの質の向上に活かした取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、事業所からの報告とともに参加者からの質問や要望等を受け、改善に向けた具体的な取り組みにつなげていく姿勢が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回、所轄の市より相談員が事業所に訪問される機会を捉えて、事業所の実情やケアへの取り組みを伝えたり、また、情報交換を行っている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時を捉えて利用者の状況を詳細に伝え、また、毎月、手紙や定期的に発行している機関紙などで報告し、その他には電話などで様子を知らせている。また、金銭管理状況も毎月、詳細に報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情等を聞く体制は確保されており、例えば年1回の母体事業所が実施している家族アンケートを通じて、不満や意見などは要因を探り、課題を検討し、運営に反映する取り組みがなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が止むを得ない場合でも、引き継ぎの期間を十分に取り、利用者への不安やダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コーチング研修やOJT教育を取り入れ、働きながら学ぶ機会を確保している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会の機会が設けられており、交流会での情報交換や事例検討会を通じてサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族と相談しながら、体験利用や短い時間でも事業所に遊びに来ていただきながら、安心と納得の利用につながる支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常日頃から職員と利用者は、一緒に過ごし学び支え合う関係づくりを築きながら支えあう関係づくりに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で職員は、利用者の希望や思いを把握し理解するために、丁寧なアプローチと声かけを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族からの意見を反映させながら、必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	関連の医療機関や福祉・介護施設と連携して、利用者 にとっての最善のケアにつながるような体制が構築さ れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と同意を得て、入居前のかかりつけ医や医 療機関での受診が出来るような支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族の意向に沿って、事業所が対応しうる最大のケア について説明を行い、また、家族・医師・看護師を交え て本人にとってどうあったら良いのか話し合いを行なっ て、方針を共有する体制が取られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	母体事業所の研修会を通じて、全職員が利用者一人 ひとりのプライバシーや尊厳について理解し、意識向 上を図っている。また、日々の関わりの中で目立たずさ りげない言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせながら、一人ひとりの心に寄 り添った生活支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と利用者が共に語り合い楽しい時間を共有しながら食べており、また、時にはバーベキュー方式の食事の場面づくりや、月に1回外食に出かけるなどしながら食事を楽しむことの支援を行っている。	
	23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入居前の生活習慣や、その日の希望や状態に合わせて柔軟な入浴支援を行っている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な家事作業や趣味など、一人ひとりの楽しみ事や能力にあった支援がなされており、また、時には利用者と職員が共に馴染みの場所に出掛けたりしながら気晴らしの支援を行っている。	
	25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や、希望、季節等の状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援を行っている。	
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかけることへの弊害を理解した上で、日中は鍵をかけない方針で、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。ただし、利用者の安全などを優先し家族の同意を得た上で、やむを得ず施錠することもある。	
	27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員全員は母体事業所やホーム独自の避難訓練に参加して、災害に対して迅速に対応が出来るよう努めている。また、災害時には隣接の関連施設の協力が得られる体制が構築されている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況は把握されており、また、定期的に関連施設の管理栄養士の専門的なアドバイスももらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、個々の利用者にとっては居心地のよい場所、安心感のある場所となるよう、季節感の物を上手く取り入れ、五感刺激への配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して、入居前に自宅で使い慣れた馴染みの日用品等を持ち込んでいただくなどして、居心地のよい個別の居室の環境づくりを行っている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームひまわり 1階

評価年月日 20 年 3 月 24 日

記入年月日 20 年 3 月 31 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 ホーム長 氏名 友田 千恵美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念とグループホームの理念を作り提示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	法人の朝礼時に職員で唱和している。グループホームの理念も常に頭に入れ、皆で共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族の方には面会時に報告したり、関連施設に広報誌を置いたりし、理解してもらえるよう取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出時に挨拶をしたり、近隣の方には畑仕事を教えてもらったりしている。 美容院や公民館活動に参加し、交流を図っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	公民館活動、美容院の利用、買物など交流を図れるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域活動の情報を収集し、活動に参加出来るような事や、何か役に立つ事はないかの話し合いは出来ている。		昨年に引き続き、今年も健康フェアを計画している。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が理解しており、評価を活かし具体的な改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、サービス状況についての報告や話し合いは出来ている。挙げられた意見の改善、サービスの向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	月に一度、廿日市市より相談員が来られて、情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等に参加し、理解できるよう学び、個々の必要性について話し合いをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修へ参加し、見過ごす事のないよう注意し防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様、家族様と十分話し合い説明を行い、理解・納得を図っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日常会話のなかで、不満や苦情を聞くようにしている。月に一度、廿日市市の相談員が来られ、外部の方にも伝えられるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に随時、報告している。また、定期的に広報誌を送り、変化があれば随時電話等で報告・相談している。二ヶ月に一度、家族会を行い報告出来るようにしている。		今年も定期的に小さな家族会を行っていききたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に一度、法人全体でアンケートを出している。その結果の改善策を提示している。 家族会も開き、意見を聞くようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや連絡ノートを利用したり、自己評価時の面接などで機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要時には、職員を確保出来るよう調整されている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>運営者は、話し合いを定期的に行って必要最低限に抑えられている。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>コーチング等の研修を行い、積極的に取組んでいる。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交流会の機会を設け、情報交換などを行い、サービスの質を向上させるように取組んでいる。(最近、機会が減っている)</p>		<p>今後は、交流の場を増やすように工夫していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>相談しやすい環境づくりを心掛けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>実績や勤務状況などを把握されており、人事考課制度を導入し、各自向上心を持って働けるように努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>初回の面接より、十分な説明や相談が出来るようにして、納得してもらえるように対応できている。日々の会話も出来ている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接時には、必ず様子を伝えている。最近では、少人数の職員と家族様との話合う場を設けている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要時には、カンファレンスを行ったり相談員に相談したりして早めに対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居者・家族様とよく相談しながら、使い慣れている物などを使用してもらい、その方の気持ちを受け止めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や買物、洗濯などを一緒に行っている。職員はサポートしながら見守りや声掛けなどをして入居者様と支えあえる関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の気持ちや意向などを大切にして入居者様と一緒に支えていく関係を築いている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	カンファレンスで話し合いを持ったり、暮らしの情報などを利用したり、より良い関係作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	文通や電話をかけてりしている。昔の写真を見せていただき、一緒に雑談したりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	レクに参加してもらったり散歩やドライブに行ったり、一緒にケーキを作ったり、誕生日会で皆と一緒に祝って、寄せ書きを送ったりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された方のお見舞いや、他施設に行かれた方など職員や入居者さまと一緒に顔を見に行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話から想いを引出し聞き取った事を職員全員が把握出来るように、カンファレンスを開いて検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	「暮らしの情報」を作成して、職員全員が把握出来るように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活は、行動記録にきにゅうして必要時には「心身の情報」用紙も利用し把握するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者を決め、本人と家族様の希望を取入れて、カンファレンスで話合って作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	半年に一度、プランを立て直している。変化が生じた時は、その都度、プランを見直している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活記録は、しっかり出来ている。変化が見られてた時は、良く分かるように青線を引き、職員間の申し送りしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族様や入居者様の希望に応じて、歯科・眼科・皮膚科などを利用している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方の来客もあり、地域資源との協働がなされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	廿日市市に相談員やケアマネージャーとも相談しながら支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の意向や必要性に応じて地域包括支援センターと協働が出来ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	併設病院で受け入れてもらっている。希望があれば月に一度、歯科・皮膚科に往診に来てもらっているが、他の希望される病院があれば職員が気付いて受診している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設病院で受け入れてもらっており、常に相談出来る状態を保っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	施設長、看護部長が一日一回は来ている。状況を報告し、相談をしながら支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に行き、家族の方や病院関係者より情報を提供してもらい、退院に向けて話し合いをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>本人や家族の希望に沿うように担当医・介護者・本人・家族と常に話し合い、方針を共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>「出来ること、出来ないこと」を職員で話し合い、担当医とともにチームとなり支援し、今後に備えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>転居時は、本人を中心とし、家族・ケア関係者間で話し合い、ダメージを受けないように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを尊重し一人ひとりに合った声掛けや対応をしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の想いを大切にし、自己決定が出来るように支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせて毎日の生活を支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人に合った身だしなみやおしゃれを大切に、それを支援している。美容院には、本人の希望通り行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に献立から決め、準備や片付けをその人に合ったようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好に合わせて日常的に、遠慮なく楽しめるようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご利用者一人ひとりの排せつパターンを知り、気持ちよい排せつが出来るよう支援し、失敗などを減らしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日、入眠前までに出来るようにしており、本人の希望又は体調に合わせて入浴を楽しんでもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣や状況をしっかり把握し、安心して休息できるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合った趣味を活かして楽しみを作ってもらおうよう、支援している。また、希望をそって外出や買物へ出かけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物へ出かける時は、本人にお金を持っていただき支払いをしてもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人で外へ散歩へ行ったり買物へ行ったりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	本人又は家族に沿い一緒に外出出来るよう、支援している。季節ごとの外出も家族に声をかけて一緒に出かける機会を作っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたり、手紙のやりとりは自由に出来、また支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人の訪問は、自由に気軽にされており居心地の良いようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修をし、職員全員正しく理解している。ケアにも取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関は、鍵を掛けていない。(夜間は掛けている)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	本人のプライバシーを尊重し一日を通し様子を把握し、安全に生活出来るように努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況や状態に応じて、危険が無いように見守り支援をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	防火訓練などは、定期的に行っている。それぞれの知識を職員全体で学びあって事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	全職員が定期的に研修等に参加し知識向上に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時のマニュアルがあり、定期的に防災訓練や話し合いを行っている。		入居者様を含めた避難訓練を定期的に行っている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	日頃より家族の面会時等に状況報告をしたり家族会を開催することで家族との連携を密にしながら入居者様本人の気持ちを第一に考えた援助に取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタルチェックして体調に異変があった場合は併設の病院があることで、すみやかに対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員一人ひとりが薬の用法・用量は理解しており、服用後の様子観察を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	入居者様一人ひとりの排便確認は、毎日行い予防と対応として、食事面での工夫や運動などを促している。 (ヨーグルト、寒天、果物、朝一杯の水等)		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歌のレクを含む口腔ケアを行っている。また、清潔保持の為、歯磨きの支持や入歯の消毒も定期的に行っている。		嚥下状態の向上、より一層楽しく、おいしく食事して頂けるような援助を考えていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量のバランス・水分量は，一人ひとりに合わせて支援している。 (刻み食、水分にはトロミを付けて摂取)		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応のマニュアルがある。流行しているときは、予防として手摺・ドアノブ・等をハイター消毒を実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具や布巾などは，ハイター消毒をこまめに行い、常に衛生管理を行っている。食材管理にも気をつけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに花を植えることで、温かい空間の環境づくりに努めている。ドアには、四季折々の飾り物などを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール、洗面所、玄関などに季節の飾り物や花などを生けたりBGM等を流して心地よく過ごして貰っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりが居心地の良い場所になるように工夫している。畳を利用して、一人で昼寝出来る場所や、玄関にはベンチなどを設置している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、本人・家族の希望を取り入れ、以前から使用していた家具等を置いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気には、常に配慮している。匂いは芳香剤を置き、室温は温度計を設置し、快適な環境をを保つよう心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室には、手摺等を設置し安全に配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	掃除、洗濯物たたみ、調理、配膳など、一人ひとりに合わせた役割分担をしている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑作りを入居者の方たちと共に楽しく行っている。		入居者の方々により楽しい生活を送っていただく為に、いろんな方の意見を取り入れ工夫していきたい。

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームひまわり 2階

評価年月日 20 年 3 月 24 日

記入年月日 20 年 3 月 31 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 ホーム長 氏名 友田 千恵美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念とグループホーム独自の理念を職員で話し合い作り上げ提示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時に職員で唱和し、理念をよく理解し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	広報誌を作成し、関連施設や家族の方に配布し、また家族の方ともよくコミュニケーションを取り、理解していただくよう取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方とも野菜をもらったり畑作業を教えてもらったりして交流している。散歩や買物時でも日常的な挨拶を気軽に出来るよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	とんどやお祭りなどの地域活動に参加したり、公民館や美容院などを利用したり、地域との交流に努めている。		地域とのつながりを強くするために今後も継続し、広げていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の情報を収集し、活動に参加して役立てる事がなく、職員間で検討している。		年に一度、法人の行事として「健康フェア」を開催している。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が理解しており、評価をする事により不足している部分は改善できるよう取り組んでる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、状況等を報告すると共に参加者の方からの意見などを話し合い、サービスの向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	月に一度、市の相談員が来たり、運営推進会議に参加したりし、情報交換の機会芸を作っており、共にサービスの向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している。	研修の機会があれば参加して、理解できるよう努めている。また、必要な人には活用出来るよう話し合いも出来ている。		全職員が研修に参加出来ているわけではないので、参加した職員によりフィードバックに努める。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修の様子があれば参加し、日々の生活の中でも見過ごす事のないよう注意し防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者・相談員と共に十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日常のコミュニケーションより、不満事などを聞くようにしており、廿日市市の相談員など外部者にも伝えられる機会を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面接時に報告するようにしており、その他随時電話にて報告している。また、広報誌を送付したり、二月に一度くらいで家族会なかでも報告している。		今後も定期的に小さな家族会を開いていきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に一度、法人全体でアンケートを出している。その結果の改善策を提示している。 家族会も開き、意見を聞くようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや人事考課の面接などで機会を設けてある。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に応じて必要な職員を確保出来るよう調整がなされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>話し合いができており、利用者への影響は必要最小限に抑えるように努めている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>院内外での研修等でコーチングの技術を学び育成するための取り組みを行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他の事業所との交流会の場を設けて、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めているが低下気味になっている。</p>		<p>今後、機会を場を増やすよう努めていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>相談しやすい環境作りなされている。不定期ではあるが、職員同士の交流の場も設けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>個々の実績や勤務状況等は、把握できており人事考課による各自向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>最初の面接で説明や相談が十分出来るように対応し、本人の意見を尊重するよう努めている。日々のコミュニケーションを図り、会話より受け止めるよう努力している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	初回の面接より困っている事や不安な事を主に聞くようにして、解決に向けての努力をしている。家族会等を工夫して機会を設けている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	医師・ホーム長・相談員等を含めて面談を行い、適切なサービスが利用出来るよう早めに対応を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	お試し期間を設けたり、家族の方も一緒に泊まる事が出来るなど、なじみの雰囲気作りにも努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・買物・洗濯など一緒に行くにより入居者の方から教わったり、常に喜怒哀楽を共にしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方からの意向を大切に、共に協力しながら支援できる関係が築かれている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の方から話を聞き、暮らしの情報シートを活用し理解する事に努め、お互いに良い関係が築けるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の写真を持って来てもらったり、本人や家族・知人から話を聞いたりなじみのある関係が途切れないように努めている。また、手紙や電話での会話への支援にも努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	誕生日には寄せ書きをしてもらったり、みんなと一緒にケーキを作り祝ったり、入居者同士の間関係も大切に、出来ない部分を補ったり支え合えている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等、サービス利用が終了してもお見舞いに行ったり、家族とも連絡を取ったりして関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話から、要望や困ったことなどを聞き「私の姿と気持ちシート」に記入してケアプランに反映している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族から話を聞いて「暮らしの情報シート」に記入し、なじみの生活環境に近いよう雰囲気作りに努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活は、行動記録に記入して必要な時には「心身の情報シート」に記入したり現状を把握出来るように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族から困っている事や要望を聞き、それをもとに日々のカンファレンスにて話し合いの上、ケアプランを作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	半年後とにケアプランを作成しているが、状況に変化がある度に日々のカンファレンスにて話し合いの上、見直している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに基づくよう記録し、状況に変化がある時には記録の部分に線を引くなど分かり易いようにして、プランの見直しに活用している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の要望や状況に応じて医師等と相談して、適切な支援が出来るように努めている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアの方の来訪や公民館活動の利用など、地域資源との協働に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要時には相談員と話しをして、地域の他のケアマネージャーや事業所との相談を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時には、相談員と話しをしながら地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族の希望を聞き、併設病院へ定期的に受診している。また、必要時には家族と相談して、他の医療機関も受診している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設病院の医師と相談している。また、職員が付き添ってから報告・相談を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員訪問時には、日々の様子を伝えたりそうだししたりしている。また、入居者とも気軽に相談出来る関係である。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院の看護師や医師に様子を聞き、華族の意向も尊重しながら対応している。入院時には職員・入居者と共に面会に行き安心していただけるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>普段から家族には、状況や法人としての対応を話しながら意向を聞き、医師との相談も出来ている。 方針も職員全員で共有出来ている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医師や相談員・家族との連携が取れるように、話し合いは出来ており「出来ること・出来ないこと」の見極めについての支援も出来ている。変化に備えての検討や準備も話し合いを行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>情報交換を行い転居後も家族に連絡をとったり面会をおこなったりして、出来るだけ安心してもらえるように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一人ひとりが気をつけると共に職員間で話し合いで気づいた時は考えて、職員全員で気をつけるようにしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々にあった方法や説明を行って、本人の希望を聞いて自己決定が出来るように努めている。</p>		<p>新しい入居者もあり、希望や自己決定出来るように関係作りに努めている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ゆっくり話しをして、想いを聞き出している。そして、その人の思いやその人らしさを大切に出来るように支援している。</p>		<p>全員が行えていないと思うので、職員間で情報交換や話し合いを行い、その人らしい暮らしにもっと近づけるようにしたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個々を大切に、出張の理容員や近所の美容院を利用して要望に応えるように努めている。		地域とのつながりになると思うので、今後も継続していきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の好みの食べ物を聞いて、献立に取り入れたり、食事準備・後片付けを一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況に合わせて、楽しんで頂けるような支援が出来る。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレの声掛けやポータブルトイレの使用など、出来るだけオムツを使用しないように、一人ひとりの排泄リズムに合わせる支援をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、希望時に出来るようにしている。17時以降については、見守りで入れる方に入浴してもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣に合わせたように支援できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴などを職員がしっかりと把握し情報をスタッフで共有し自然にサポートできるように努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は、ほとんど預かりとしている。必要時に本人へ手渡しをして、支払いをしてもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買物・外出希望などがあれば、その都度出掛けしている。		天候に合わせて、外出を多く取り入れている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族に連絡をして、一緒に行っている。季節に合わせて名所等にドライブや写真を撮ったりしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を利用できるようにしている。葉書・便箋・封筒を準備している。郵便物が届いた時に、希望に沿って読んであげたり返事書きのお手伝いをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会が出来るような環境づくりに心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員が理解している。身体拘束は行っていない。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>外出の気配を職員が見逃さないように、見守りや関係プレーで安全面に配慮して、その人らしく生活が出来るように支援している。日中は、鍵をかけていない。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に職員は、さりげなく様子を把握している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせて危険の無いよう、注意しながら見守っている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が研修参加に取り組んでいる。講習や研修で学んだことは、カンファレンスで報告して事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>今後も研修等に参加して、それを活かせるに勉強会を開く。</p>
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>定期的には、行っていない。急変時などは、併設の医師に報告して、指示を仰ぐ。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	入居者も参加して、防災訓練を行っている。災害時マニュアルも作成している。		現在、法人の防災訓練の他に、グループホーム自体での防災訓練もおこなっていて、それを継続していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時には、状況を報告して起こりえるリスクについての対応を家族に相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行い、異変時には看護部長やホーム長に相談して、受診をするなど併設病院との連携も出来ている。		見逃す事のないように注意していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用している薬を一人ひとり表にしてまとめている。目的や副作用については、薬剤情報を活用している。服用後も様子観察に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	一人ひとりの排便状況を把握して、医師の指示で下剤の調整を行っている。予防として運動してもらったりし、食事等も工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けにて、歯磨きをしてもらっている、夜間は、入れ歯を外して水につけてもらうようにしている。週に一回は、ポリドントを実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食べられる量を把握して、状況によっては、お粥や刻み食にしている。水分補給もこまめに摂取してもらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応のマニュアルがあり、ファイルにまとめている。また、手摺・ソファー・椅子の肘掛など、常時拭いて殺菌している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、布巾やお盆をハイター消毒している。まな板は、熱湯消毒などを行っています。手拭きは、ペーパータオルを使用している。食べ物等は、常温で置き続けないようにするなど、常に気をつけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりや建物のフラワーボックスに花を植えたり、エレベーター前に花を飾ったりして、環境づくりに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールでは、BGMなどで穏やかな雰囲気作りをしたり、ホール・洗面所・玄関などに季節も花を飾ったりしている。ドアにも四季折々の装飾をするなど、季節感を出している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	エレベーター前の窓際にソファがあり、一人で日向ぼっこなどが出来る。ある時は気のあった者同士のくつろぎの場所になる。玄関にはベンチを設置して利用してもらっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人・家族の希望を取り入れ、なじみの家具などを利用するなど安心して過ごせるように環境づくりをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に室温を注意している。ホールに湿度計・各居室に温度計を設置して管理している。換気についてもこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺の設置や床面のバリヤフリーなど、安全な作りになっている。居室においては、家具の配置など状況に応じて安全に気をつけている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	家事などは、自然に役割があって本人の力が発揮出来ている。さりげなく、見守り、フォローしている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や畑作業を入居者の方々と行っている。外には、ベンチがあり、ゆったり出来るスペースになっている。		